

令和 2 年度
第 51 回全国学校保健・学校医大会
開 催 要 項

日 時 令和 2 年 11 月 14 日（土）10：00～
（受付 9：00～）

会 場 富山国際会議場
ANA クラウンプラザホテル富山

主 催：日本医師会

担 当：富山県医師会

令和 2 年度 第 51 回全国学校保健・学校医大会 プ ロ グ ラ ム

テ ー マ 「子どもたちを守り、はぐくむ」

日 時 令和 2 年 11 月 14 日（土）午前 10 時～

会 場 富山国際会議場 富山市大手町 1-2
ANA クラウンプラザホテル富山 富山市大手町 2-3

主 催 日本医師会
担 当 富山県医師会

参 加 者 日本医師会会員および学校保健に関係ある専門職の者

参加形式 現地会場または Web 参加

参 加 費 現地参加は 15,000 円、Web 参加は 5,000 円

1. 受 付 ANA クラウンプラザホテル富山 3 階 9:00～

2. 分科会 各分科会会場 10:00～11:30

第 1 分科会 からだ・こころ（1）

ANA クラウンプラザホテル富山 3 階・鳳の間 I

座長 富山県小児科医会会長 嶋尾 智

JCHO 高岡ふしき病院小児科部長 宮崎あゆみ

第 2 分科会 からだ・こころ（2）

ANA クラウンプラザホテル富山 3 階・鳳の間 II

座長 富山県立中央病院小児科部長 五十嵐 登

高岡市医師会理事 市村 昇悦

第 3 分科会 からだ・こころ（3）

ANA クラウンプラザホテル富山 3 階・ASUKA の間

座長 射水市医師会会長 木田 和典

富山市医師会理事 八木 信一

第 4 分科会 耳鼻咽喉科

富山国際会議場 2 階（201・202）会議室

座長 富山県耳鼻咽喉科医会会長 麻生 伸

富山大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科教授 將積日出夫

第 5 分科会 眼科

富山国際会議場 2 階（203・204）会議室

座長 富山県眼科医会会長 片山 寿夫

富山県医師会理事 金子 敏行

3. 緊急メッセージ

富山国際会議場 3 階メインホール 11:30~12:10

「新型コロナウイルス感染症から子どもたちを守るために ~本当の敵はどこにいるのか~」

富山大学医学部小児科学講師 種市 尋宙

昼 食

富山国際会議場 2 階 特別室・201~204 会議室

12:10~13:00

4. 開会式・表彰式

富山国際会議場 3 階メインホール 13:00~13:55

開 会

挨 拶

富山県医師会会長

馬瀬 大助

日本医師会会長

中川 俊男

祝 辞

富山県教育委員会教育長

伍嶋二美男

表 彰

学校医

7 名

養護教諭

7 名

学校関係栄養士

7 名

謝 辞

受賞者代表

閉 会

5. 次期担当医師会長挨拶

富山国際会議場 3 階メインホール 13:55~14:00

6. シンポジウム

富山国際会議場 3 階メインホール 14:00~16:20

テーマ「健全な学校生活にむけて~医療と教育の連携~」

座長 富山県小児科医会会長

嶋尾 智

富山県医師会副会長

村上美也子

基調講演「学校における食物アレルギーの最近の話題」

富山大学医学部長・学術研究部医学系小児科学講座 教授

足立 雄一

シンポジウム

①「「子供の健康管理プログラム」の事後対応ー富山県医師会と県教育委員会との連携ー」

富山県立中央病院小児科部長

五十嵐 登

②「高岡市小児生活習慣病予防健診の実際と全国実態調査報告」

JCHO 高岡ふしき病院小児科部長

宮崎あゆみ

③「学校生活における児童生徒の心原性失神」

富山県立中央病院小児科部長

藤田 修平

④「子宮頸がん予防ワクチン接種率向上に向けた取り組み」

富山県議会議員・富山県医師会常任理事

種部 恭子

7. 特別講演

富山国際会議場 3 階メインホール 16:25~17:10

座長 富山県医師会会長

馬瀬 大助

「神の鳥、ライチョウを未来へつなぐ」

富山市ファミリーパーク 園長

石原 祐司

8. アトラクション

富山国際会議場 3 階メインホール 17:20~17:50

「越中五箇山民謡」

富山県立南砺平高等学校 郷土芸能部

9. お弁当配布

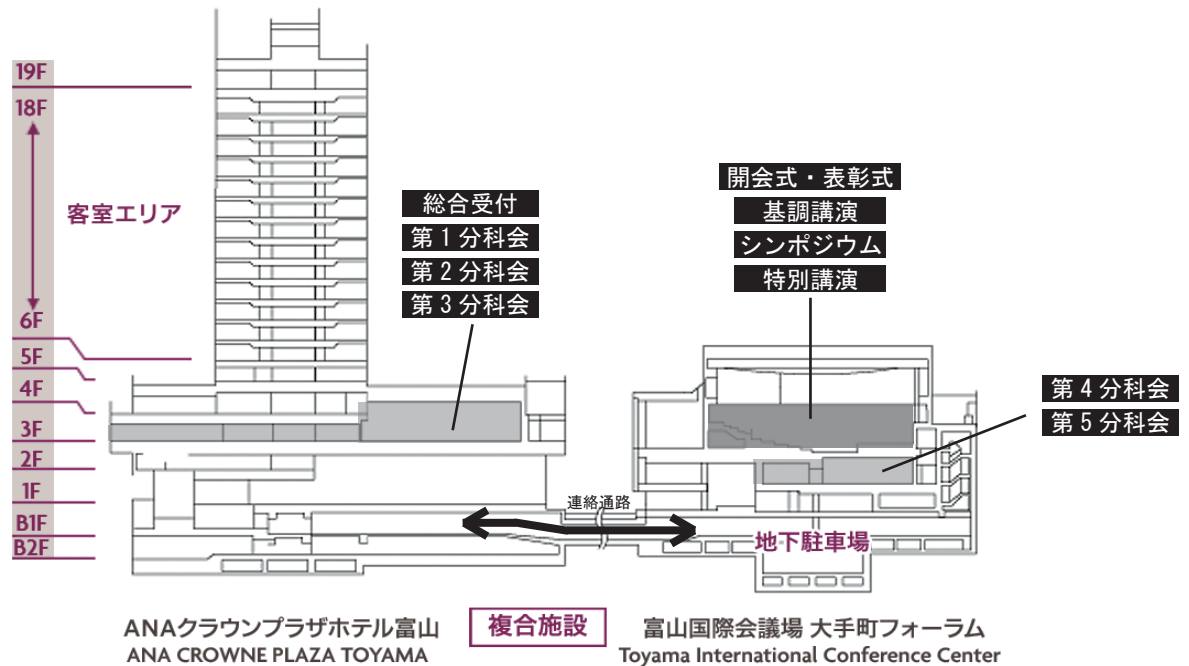
富山国際会議場 3 階メインホール前ロビー
ANA クラウンプラザホテル富山 3 階鳳の間

18:00~20:00

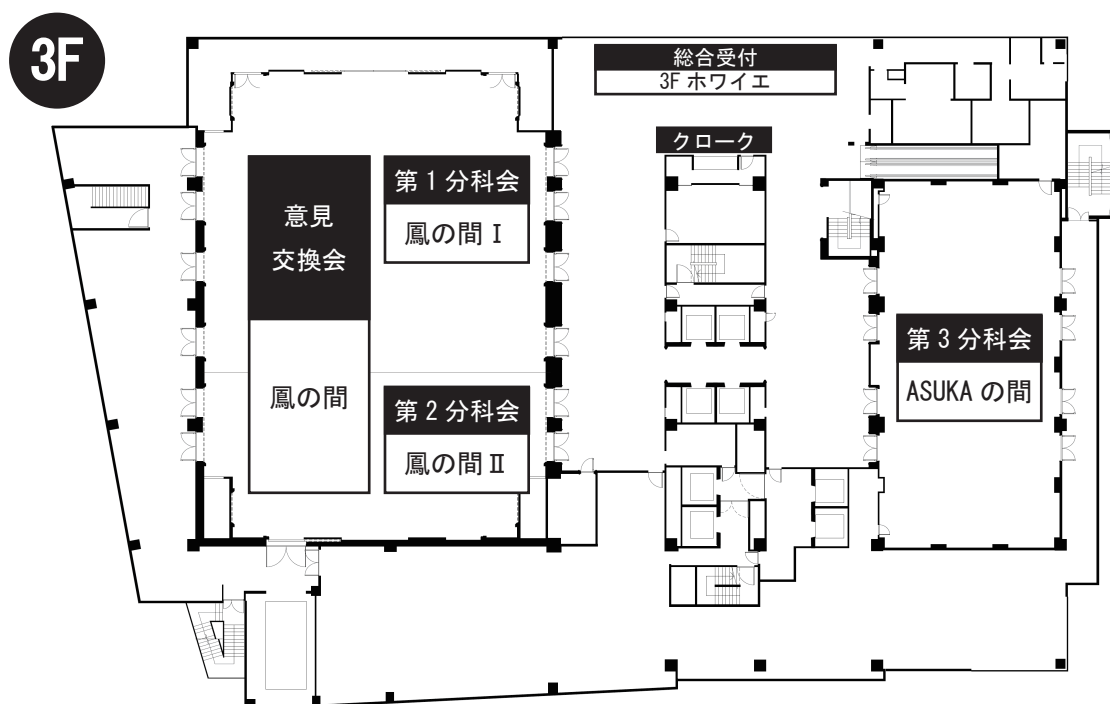
第 51 回全国学校保健・学校医大会

会 場 案 内 図

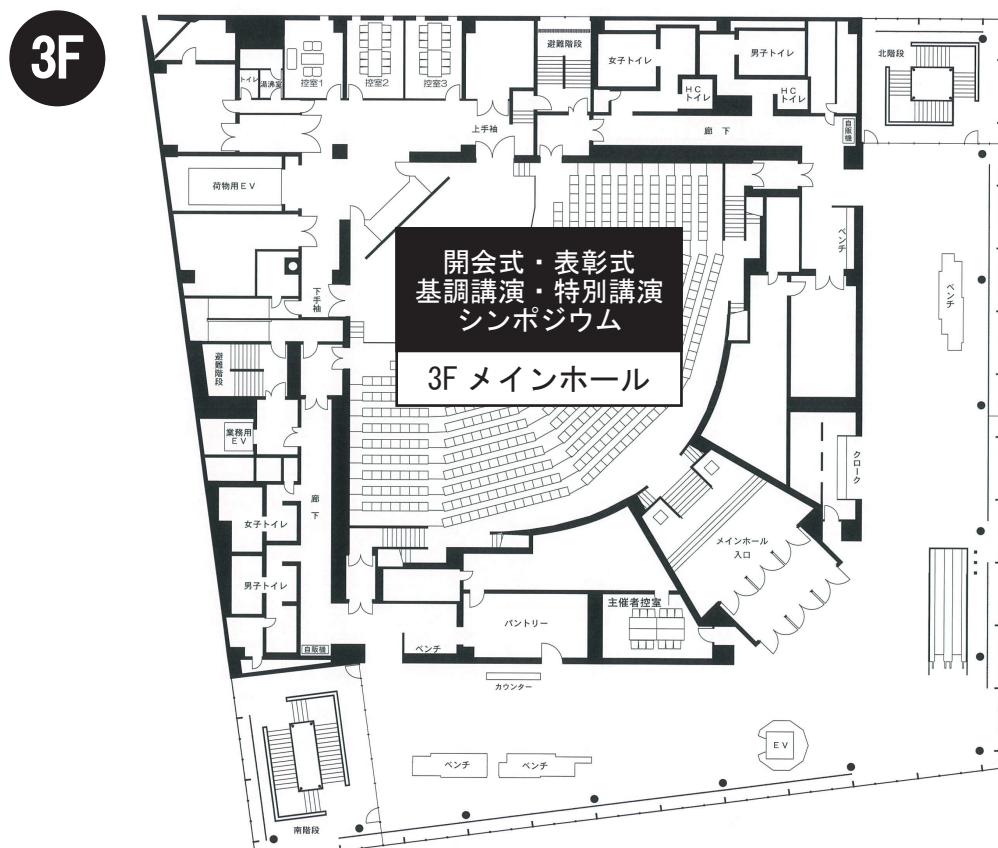
【富山国際会議場と ANA クラウンプラザホテル富山の位置関係】



【ANA クラウンプラザホテル】



【富山国際会議場】



分科会発表の趣旨

第 1 分科会 9 頁

第 2 分科会 12 頁

第 3 分科会 15 頁

第 4 分科会 18 頁

第 5 分科会 20 頁

第 51 回全国学校保健・学校医大会研究発表者・演題一覧

第 1 分科会「からだ・こころ（１）」

ANA クラウンプラザホテル富山 3 階・鳳の間 I

〔座長〕 富山県小児科医会会長 嶋尾 智

JCHO 高岡ふしき病院小児科部長 宮崎あゆみ

発表順	演題名	研究発表者名	
1	福井県医師会の学校腎臓検診の取り組み～福井県版学校検尿マニュアルの導入～	福井県医師会	森 夕起子
2	岐阜県医師会による岐阜県方式学校検尿システムの実際	岐阜県医師会	加納 正嗣
3	成長曲線・肥満度曲線と個人別の運動量・栄養計算	奈良県医師会	高橋 泰生
4	小学4年から中学2年の Percentage Overweight (POW)の10%の増減が、非空腹時脂質値に与える影響	岐阜県医師会	平野 量哉
5	児童・生徒の成長に伴う心電図の変化～5万人の正常心電図から～	神奈川県医師会	岩本 眞理
6	学校心臓検診 2 次検診対象者抽出のガイドライン：改訂のポイント	東京都医師会	鮎澤 衛

第 2 分科会「からだ・こころ（２）」

ANA クラウンプラザホテル富山 3 階・鳳の間 II

〔座長〕 富山県立中央病院小児科部長 五十嵐 登

高岡市医師会理事 市村 昇悦

発表順	演題名	研究発表者名	
1	秋田県医師会 「明日はきっといい日になる」ロコモダンスプロジェクト	秋田県医師会	後藤 敦子
2	姿勢の指標として“上体起こし”に注目	広島県医師会	泉 恭博
3	新型コロナウイルス感染症による長期休業が生徒の健康に及ぼす影響について一骨密度測定結果・スポーツテスト・アンケート結果などより	東京都医師会	猪狩 和子
4	発達障害児・医療的ケア児の災害時対応マニュアル作成に向けて 岡山県医師会小児科部会・岡山県小児科医会の取り組み	岡山県医師会	横山 裕司
5	保育施設における食物アレルギーの実態と就学时引き継ぎの課題についての検討	和歌山県医師会	島津 伸一郎
6	一般学童における吸入アレルギー感作率の経年変化	滋賀県医師会	楠 隆
7	徳島県の公立学校におけるアレルギー事例検討会の取り組みについて	徳島県医師会	田山 正伸

第3分科会「からだ・こころ(3)」

ANA クラウンプラザホテル富山 3階・ASUKAの間

[座長] 射水市医師会会長 木田 和典

富山市医師会理事 八木 信一

発表順	演題名	研究発表者名	
1	発達性読み書き障害(ディスレクシア)を抱える子どもたちのためのトレーニングソフトの開発および書籍	埼玉県医師会	平 岩 幹 男
2	新型コロナウイルス感染症児発生時の学校と福祉保健所との連携	高知県医師会	吉 川 清 志
3	高知県の新型コロナウイルス感染症対策における子どもの心のケア : 医療—教育連携を中心に	高知県医師会	高 橋 秀 俊
4	守口市5歳児健康診査巡回支援事業の取り組み	大阪府医師会	森 口 久 子
5	学校メンタルヘルス活動からみえてきた学級崩壊の構造と対策	三重県医師会	梅 本 正 和
6	西宮市児童におけるインターネット依存の実態調査	兵庫県医師会	前 寛
7	睡眠育成士の活動について	愛知県医師会	松 川 武 平

第4分科会「耳鼻咽喉科」

富山国際会議場 2階会議室(201・202)

[座長] 富山県耳鼻咽喉科医会会長

麻生 伸

富山大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科教授

將積日出夫

発表順	演題名	研究発表者名	
1	耳鼻咽喉科学校医の健康教育の現状と対策～富山市小中学校養護教諭へのアンケート調査結果をもとに～	富山県医師会	高 野 正 美
2	学校保健に関する行政への働きかけとその成果	新潟県医師会	大 滝 一
3	大阪市における耳鼻咽喉科学校保健による現状(続報)～大阪市公立小中学校養護教諭へのアンケート～	大阪府医師会	森 脇 計 博
4	軽度・中等度難聴児の補聴器装用状況について	神奈川県医師会	寺 崎 雅 子
5	川崎市における耳鼻咽喉科定期健康診断20年間の疾患別統計の検討	神奈川県医師会	吉 川 琢 磨
6	徳島県における先天性一側性外耳道閉鎖症児の軟骨伝導補聴器常時装用のための取り組み	徳島県医師会	島 田 亜 紀

第5分科会「眼科」

富山国際会議場 2階会議室 (203・204)

[座長] 富山県眼科医会会長 片山 寿夫

富山県医師会理事 金子 敏行

発表順	演題名	研究発表者名	
1	近視予防をかえりみる	富山県医師会	森 田 嘉 樹
2	学校医活動に関するアンケート結果	富山県医師会	米 脇 克 哉
3	3歳児健診での他覚的屈折検査機器の導入について －富山県全域への導入を目指して－	富山県医師会	片 山 寿 夫
4	「小児弱視の対応に向けて」の講演と実地研修会を開催する意義	石川県医師会	望 月 雄 二
5	江戸川区で実施した5年間の色覚検査の結果と問題点	東京都医師会	田 中 寧
6	富山県における平成28年、29年度の学校色覚検査 実施調査の検討	富山県医師会	豊 田 葉 子
7	小中学生に対するコンタクトレンズに関する指導	大阪府医師会	宮 本 裕 子
8	学校での子どもたちへのカラーコンタクトレンズの啓発	神奈川県医師会	宇津見 義 一

第1分科会「からだ・こころ（1）」

1-1. 福井県医師会の学校腎臓検診の取り組み ～福井県版 学校検尿マニュアルの導入～

福井県医師会・JCHO 福井勝山総合病院小児科部長 森 夕起子

福井県小児科医会学校検尿ワーキンググループ：玉村 宗一、林 泰平、谷口 義弘
石川さやか、藤澤 和郎、土田 晋也
福井県医師会学校保健委員会：笠原 善仁
福井県小児科医会：加藤 英治、橋本剛太郎

私たちは2018年に福井県医師会内に学校検尿判定委員会を設置し、福井県教育委員会と各検査会社の協力を得て、2019年4月から「福井県版 学校検尿マニュアル」を用いた学校検尿システムを開始した。

まず、2016～2017年に福井県内のすべての小中学校にアンケート調査を行い、現状の把握と問題点を明らかにした。また、検査担当機関を訪問し検査・判定方法などを調査した。福井県学校検尿はB方式であるが、一次精密検診（三次検尿）を担当する医療機関を登録制とし、マニュアルに規定されている診療・検査を行う事とした。二次精密検診は腎生検が可能な病院とし紹介基準も設定した。各学校は一次精密検診を指示した生徒を把握し未受診者に受診を促すため事後措置報告書を作成し、教育委員会へ報告するシステムとした。すべての結果は学校検尿判定委員会で集計し、年度末に関係機関へ報告する事とした。初年度の結果などをまとめて報告する。

1-2. 岐阜県医師会による岐阜県方式学校検尿システムの実際

岐阜県医師会・岐阜県医師会学校心臓・腎臓検診委員会 副委員長（学校腎臓検診担当）

加納 正嗣

岐阜県医師会：河合 直樹、伊在井みどり、加川 憲作、西野 好則、磯貝 光治、矢嶋 茂裕
岐阜県医師会学校心臓・腎臓検診委員会委員長：久野 保夫
岐阜県医師会学校心臓・腎臓検診委員会（学校腎臓検診担当）：田下 秀明、大橋 宏重、松隈 英治
浅野喜代治、青木 孝彦、中嶋 義記、大平 敏樹、大庭 敏夫
加藤 悟司、内田 靖、川越 孝次、山岸 篤至

岐阜県では岐阜県学校保健会から岐阜県医師会への委託事業として全県立学校を対象とした学校検尿判定委員会を行っている。2019年度では41418名の1次検尿受検者のうち1次検尿陽性であった1777名（4.29%）を検討の対象とし、全てを個別に検討している。

今回の発表では実際の判定の様子を説明したい。

1学期の検討委員会

検討する情報は1次検尿・2次検尿結果と昨年までの管理票情報。医療の対象になる可能性があると判定したものが216名（0.52%）、経過観察が望ましいと判定したものが199名（0.48%）であった。

2学期の判定委員会

医療機関から報告された検査結果・診断名・管理区分などを検討した結果、子供にとって不利益があると考えられた場合には医療機関に対して意見書を送付する。

実際の判定

血尿・蛋白尿持続陽性のIgA腎症、尿蛋白4+で緊急対応したネフローゼ症候群などを判定委員会で実際に使用した資料を提示して説明する。

効果

岐阜県方学校検尿システムでは個別判定を行い、適切でない時には医療機関へ意見書を送付することで、より良い医療を促している。

1-3. 成長曲線・肥満度曲線と個人別の運動量・栄養計算

奈良県医師会・奈良県医師会学校医委員会 高橋 泰生

宮城県立こども病院小児科：鈴木 資
たかはしファミリークリニック：萬砂 秀雄

昨年の本学会で我々は、成長曲線を一瞬で描ける健診用プログラムを開発した。これを用いれば、学校現場を悩ませている「Excel 原票」を簡単に作成し、学校医も簡単に「Excel 原票」を用いて成長曲線を描ける。成長曲線作成の意義として、身長伸びの病的異常（低身長や性早熟症）を早期発見すること以外に、肥満度曲線を用いて適切なエネルギー摂取量や供給量を計算し栄養・食事指導をすることが挙げられる。そこで今回プログラムに、肥満・やせ児の栄養指導のためのエネルギー目標を組み込んでみた。マクロボタンをクリックするだけで、「Excel 原票」を一瞬で読み込み、成長・肥満度曲線を描画、さらに栄養指導のためのエネルギー目標を個人ごとに計算、指導内容を印刷できる。

1-4. 小学4年から中学2年の Percentage Overweight(POW)の 10%の増減が、非空腹時脂質値に与える影響

岐阜県医師会・各務原市医師会学校医活動小委員会・邦量会 那加こども医院 平野 量哉

小林 由季、寺本 貴英、伏屋 芳文、岩田 吉弘、木全かおり
松尾 直樹、宇治 正二、西野 好則、竹内 美征、浅野 昇悟、八木澤芳生

各務原市では小児肥満対策事業として、市内の小学4年と中学2年を対象に非空腹時の脂質検査を行っている。2011～13年に小学4年で2015～17年に中学2年であった生徒の身体測定及び脂質検査のTracingを行い、小学生から中学生への成長段階の脂質値及び肥満度の縦断的コホート研究により、小中学生の肥満度と各脂質値の関係を検討した。対象は、2時点で測定・検査が行えた男子1582人、女子1485人を対象とした。成長により、男子で全ての脂質値は低下するが女子では低下は少なくHDLは上昇した。男女とも肥満度10%以上の増加は、HDLの低下、nonHDL-C及びLog(TG)の上昇をきたし、肥満度の減少はHDLの上昇、nonHDL-C及びLog(TG)の低下につながった。小中学生の肥満度管理は、将来の血管障害のリスクとなる脂質異常の改善に有効な方法であろう。

1-5. 児童・生徒の成長に伴う心電図の変化～5万人の正常心電図から～

神奈川県医師会・済生会横浜市東部病院こどもセンター長 岩本 眞理

長嶋 正實、鮎澤 衛、泉田 直己、堀米 仁志、牛ノ濱大也、田内 宣夫
住友 直方、阿部 勝己、米山 達哉、加藤 愛章、加藤 太一、吉永 正夫

小児心電図研究委員会（前 日本小児循環器学会学校検診委員会）では、国内約5万人の健康児童生徒（小1、中1、高1の男女）の心電図を収集して正常値を作成した。小児は成長に伴って心電図が変化することが知られており、児童生徒の小1から高1の心電図を各成分について検討した。成長により①心拍数低下②PQ間隔延長③QRS幅延長④ST（右側胸部誘導）上昇⑤V1誘導T波陽性化がみられ、③④⑤は男子で顕著であった。これに対し⑥QRS軸⑦R波高の変化は目立たなかったが、⑦は中高女子で低い傾向にあった。今回の検討はフィルターONでの心電図記録であり、フィルターOFFデータとはQRS波高に差が生じることが予測される。

1-6. 学校心臓検診 2 次検診対象者抽出のガイドライン：改訂のポイント

東京都医師会・日本大学医学部小児科准教授 鮎澤 衛

長嶋 正實、岩本 眞理、泉田 直己、堀米 仁志、牛ノ濱大也、田内 宣夫
住友 直方、阿部 勝己、米山 達哉、加藤 愛章、加藤 太一、吉永 正夫

「学校心臓検診の 2 次検診対象者抽出ガイドライン」は、2006 年に改訂され、広く活用されてきた。しかし 10 年以上が経過し、心電図自動診断の進歩や、児童生徒の成長発達、体格の変化があること、また、児童生徒に関連する、小児循環器病学の新しい知見が増えてきたことから、ガイドラインの改訂が必要になった。改訂にあたっては、5 万人の健康小児の心電図をもとに正常値を作成し、心電図判定の各基準値を訂正した。さらに、新しい不整脈疾患の判定基準と説明を取り入れ、他にも多くの項目に正確性を期するための注釈を追記したため、主な変更点について解説したい。児童生徒にとって、この改訂が今後さらに適切な学校生活管理に寄与することが期待される。

第2分科会「からだ・こころ(2)」

2-1. 秋田県医師会 「明日はきっといい日になる」ロコモダンスプロジェクト

秋田県医師会・今村記念クリニック副院長 後藤 敦子

高橋 郁子、土田 聡子、平元 泉(オブザーバー)

秋田県医師会副会長：小泉ひろみ

児童生徒の肥満や運動器傷害予防を目的に「ロコモダンス」を考案した。冬場にも運動でき継続できることを目的とした、動きながら筋肉を伸ばすダイナミックストレッチを取り入れたダンスである。

ダンス音楽には秋田県出身のミュージシャン高橋優の「明日はきっといい日になる」をレコード会社とコンテンツ使用許諾契約を取り交わした上で使用させてもらい、井川義務教育学校の小1から中1の7学年で、体育の準備運動として一年間ロコモダンスを実践してもらった。児童生徒の意見を取り入れダンスを手直しし、学校配布用DVDを作成することができた。今後県内各学校に広めたいと考えており、これらの経緯と結果について報告する。

2-2. 姿勢の指標として“上体起こし”に注目

広島県医師会・医療法人熊の会いずみ整形外科クリニック院長 泉 恭博

松村 誠、森田 健司、堂面 政俊、永田 忠

(協力) 広島市教育委員会

脊柱の矢状面弯曲はPre-adolescent growth periodになる9歳ごろまでに構築形成されるので、この年齢まで弯曲を維持する腹筋力が望まれる。平成10年度から新体力テストでは腹筋を評価する上体起こしが追加されているので、学童1560名(男子528名、女子1032名)の市内某小学校の一年生(男子108名、女子99名)の体力測定結果に注目した。上体起こしは10回以下が男女ともに約半数であり、5回以下(男子16%、女子23%)の弱い腹筋力では脊柱の健全な矢状面弯曲を保つことは困難である。

学校保健教育にはこれら結果を把握し、生活指導をして、健全な姿勢の形成に役立てたいものである。

2-3. 新型コロナウイルス感染症による長期休業が生徒の健康に及ぼす影響について 一骨密度測定結果・スポーツテスト・アンケート結果などより

東京都医師会・豊島区医師会学校医部委員会 猪狩 和子

豊島区医師会学校医部委員会：大蔵 眞一、富田 香、柳沢 亮二、田村 仁
興石 義彦、後藤 伊織、岡野 智裕、関谷 健一

保坂 辰樹、小林裕太郎、平井 貴志

豊島区学校保健会：長田 英生、林 敦子、飯島 光正、野村 友彦

河野 貴子、田中 睦子、清水 美弥

豊島区学校医会：原田 晴彦、内水 浩貴、宮川 裕子、小林真理子

順天堂大学医学部小児科学教室：鈴木光幸、箕輪 圭、本田 由佳

順天堂練馬病院整形外科：坂本 優子、豊島区教育委員会：田辺 誠一、豊島区：高野 之夫

本年、3月より東京都豊島区では新型コロナウイルス感染拡大に伴い、約3か月に及ぶ長期休業、自宅待機の措置が講じられた。授業再開に伴い、50M走が完走できない、死に対する恐怖感で精神的に不安定な生徒も多く、長期休業、自宅待機が、生徒の心や体の健康に及ぼす影響はかなり大きいと考えられる。生徒の心や体の健康に及ぼす影響について、10年間の骨密度測定結果やスポーツテスト、アンケート結果を中心に検討し、考察を加えたいと思う。

東京都豊島区における小中学校骨密度測定事業は、東京都牛乳供給事業を引き継ぎ、平成 22 年度以後、学校医・学校歯科医・学校薬剤師・養護教諭・校長・教育委員会など各部会協力のもと、豊島区学校保健会事業として継続してきた。

近年、最大骨量を獲得する思春期における良質なカルシウムの摂取が、将来の骨粗鬆症の発生頻度を下げる有用な方法であるとの研究報告があり、測定結果を生徒や保護者へフィードバックし、結果をもとに養護教諭による食生活、運動、生活習慣について骨密度を上げるための保健指導を行い、大切なこの時期に、高い骨量を獲得して将来の骨粗鬆症を予防する取り組みを行ってきた。

豊島区学校医会より豊島区学校保健会に GE 社製骨密度測定機器 4 台を寄贈し、順天堂大学医学部小児科、整形外科の協力を得て、学校医、医師会、行政(豊島区)、大学が連携し、長期的に共同研究を行うまたとない機会に恵まれ、豊島区立中学校 1、2、3 年生、小学校 6 年生の骨密度と栄養・運動・生活習慣・スポーツテストなどとの関連性を検討した。第 43～50 回全国学校保健・学校医大会で第 1～8 報として報告したが、今回、この事業が 11 年目を迎えるにあたり、過去 10 年間の結果をまとめ、今年度の測定結果と比較し、新型コロナウイルス感染による長期休業が生徒の健康に及ぼす影響について、骨密度測定結果やスポーツテスト、アンケート結果を中心に検討し、考察を加えたい。

2-4. 発達障害児・医療的ケア児の災害時対応マニュアル作成に向けて

岡山県医師会小児科部会・岡山県小児科医会の取り組み

岡山県医師会・岡山県小児科医会会長 横山 裕司

2018 年 7 月の西日本豪雨災害において、岡山県でも、多くの方が被災され、子供と子供を看護する家庭にも重大な影響を与えたことは、小児に対する災害対応について深く憂慮するところであり、災害時対応マニュアルの整備・体制づくりが必須である。

災害時、①災害時トリアージのなかで、重症とはされない発達障害児や医療的ケア児の優先順位が低く対応が遅れた、②福祉避難所への指示・把握等ができていない、③病院や行政での対応マニュアルの不備等の問題が起きました。

災害対策基本法に基づき避難行動要支援者名簿が作成され、要支援者に対して、それぞれの状況に応じた個別支援計画を作成することが求められます。実効性のある避難計画を作成するためには、福祉避難所を整備することはもちろん、特別支援学校や児童発達支援センターを計画に組み込むこと、発災初期に入院可能な病院を災害拠点病院以外に確保すること等、多くの課題が山積しています。これらの課題に対する岡山県医師会小児科部会・岡山県小児科医会の取り組みを発表する。

2-5. 保育施設における食物アレルギーの実態と就学时引き継ぎの課題についての検討

和歌山県医師会・社会医療法人黎明会 北出病院小児科アレルギー科医長 島津 伸一郎

教育現場では食物アレルギー児への対応は重要な課題のひとつである。私たちは 2018 年 10 月に和歌山県日高地方の保育施設に対して除去食の実態についてアンケート調査を行った。

〔結果〕対象 34 施設（園児数 2337 名）のすべてから回答を得た。除去食対応を受けている園児は全体で 139 名（5.9%）であった。約 3/4 の施設（26 施設、76.5%）に食物アレルギー児が在籍していた。除去食品は鶏卵 105 名（75.5%）、牛乳 51 名（36.7%）大豆 12 名（8.6%）、小麦 11 名（7.9%）などであった。食物アレルギーは年齢とともに減少傾向をみるが就学时にも持ち越している。就学时に食物アレルギーについて、いかに学校に伝えていくか、課題について検討を加え報告する。

2-6. 一般学童における吸入アレルギー感作率の経年変化

滋賀県医師会・龍谷大学農学部食品栄養学科教授 楠 隆

滋賀県医師会：小西 眞、樋上 雅一

滋賀県近江八幡市学校保健会：西川 達朗、頼住 一、山本 克與

近江八幡市の全公立小学校に通う小学5年生全例を対象に、2008年、2014年、2019年の3回に渡って吸入アレルギー（ダニ、スギ、カモガヤ）特異的IgE抗体価を測定し、感作率の推移を検討した。ダニ感作率は47%（2008）、52%（2014）、54%（2019）、スギ感作率は40%（2008）、52%（2014）、61%（2019）、カモガヤ感作率は35%（2008）、36%（2014）、45%（2019）となり、いずれの感作率も上昇していた。特にスギ感作率の上昇が著明であった。学童における花粉症対策が急務である。

2-7. 徳島県の公立学校におけるアレルギー事例検討会の取り組みについて

徳島県医師会・徳島県医師会常任理事・田山チャイルドクリニック院長 田山 正伸

徳島大学病院小児科：杉本 真弓

山田こどもクリニック：山田 進一

今井耳鼻咽喉科・徳島県医師会副会長：今井 義禮

斎藤整形外科・徳島県医師会長：齋藤 義郎

2018年、徳島県医師会と徳島県教育委員会との間で、学校保健に関する協定書を締結した。その後、徳島県内の公立学校においてアレルギー症状を発症し、県教育委員会に各学校から報告された事故事例について、県医師会と県教育委員会の間で情報共有及び医学的監修による検証を、初めて実施した。アレルギー疾患事故事例検討委員会の取り組みについて、その経緯、実施方法及び成果について報告する。

第3分科会「からだ・こころ(3)」

3-1. 発達性読み書き障害（ディスレクシア）を抱える子どもたちのための トレーニングソフトの開発および書籍

埼玉県医師会・Rabbit Developmental Research 代表 平岩 幹男

発達性読み書き障害（ディスレクシア）は特異的学習障害の中では最も多く、欧米では人口の2～5%といわれるが、欧米に比べてひらがな、カタカナ、漢字など多くの文字種を持つわが国ではより多い可能性があるし、臨床では未診断・未対応の子どもたちにしばしば遭遇する。これらの子どもたちは基本的に知的な遅れはなく、音声言語（聞く、話す）には問題がないにもかかわらず、文字言語（読む、書く）での困難さを抱える。就学後に発見されることが多いが、多くはそのまま経過を見られている。この病態に対してわが国で初めて音声認識エンジンを搭載したゲームソフトを開発し、それとコラボする書籍を発行してトレーニングを行うことができるようになったので報告する。

3-2. 新型コロナウイルス感染症発生時の学校と福祉保健所との連携

高知県医師会・土佐希望の家 医療福祉センター長 吉川 清志

高知県医師会：石黒 成人、武田 丘

高知県安芸福祉保健所：福永 一郎

高知県の新型コロナウイルス感染者は現在までに74人で、小児4人はすべて成人からの感染であり重症者はなかった。そのうち1例は小学生であり、濃厚接触者としてPCR検査が実施された段階から、学校と福祉保健所は緊密に連携して対応した。感染児の保護者への情報提供、保護者説明会の開催、濃厚接触者の選定とPCR検査、マスク対応、プライバシー・心の問題・風評被害対応などを行った。学校（県及び市町村教育委員会）、市町村行政、福祉保健所は情報を共有し、適切に危機管理を行わなければならない。私たちは学校医として、教職員を含む校内感染者発生時に適切に対応するために、予備知識を持っておくべきと考え経験を報告する。

3-3. 高知県の新型コロナウイルス感染症対策における子どもの心のケア ：医療—教育連携を中心に

高知県医師会・高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学 特任教授 高橋 秀俊

高知大学医学部小児思春期講座教授：藤枝 幹也

高知県小児科医会会長：船井 守

高知県医師会園医学校医部会：吉川 清志、石黒 成人、武田 丘

新型コロナウイルス感染症によって、子どもを取り巻く家庭や学校などの生活環境は激変し、子どものメンタルヘルスに対して教育・福祉・医療を含む多領域からのサポートが求められている。令和2年4月に全国に緊急事態宣言が発令され、学校では長期の休校を強いられ、子どもたちは外出の自粛を要請された。同年5月に規制は少しずつ緩和され、学校も徐々に再開したが、子どものメンタルヘルスに様々な課題が認められている。そのため、高知県医師会・高知県小児科医会・高知大学医学部小児思春期講座・高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学の四団体は、学校が再開されるタイミングに合わせて、学校再開後の子どもの心のケアに関して、高知県教育委員会に提言を行った。本演題では、この提言にいたった背景や、その後の対応について医療—教育連携を中心に説明し、今後予想される第2波、第3波の対策について検討する。

3-4. 守口市 5 歳児健康診査巡回支援事業の取り組み

大阪府医師会・医療法人誠心会森口医院 院長 森口 久子

福島 忍、佐藤 睦恵、房岡 徹、黒川 清、中尾 正俊
益田 元子、田中 英高、福田弥一郎、茂松 茂人
守口市健康推進課、守口市医師会、大阪国際大学、大阪府医師会

平成 17 年に施行された発達障害者支援法の下、守口市に於いても 5 歳児健診に対する取り組みが始まった。守口市ですでに母子保健事業として行われている健診に加え、発達の偏りを持つグレーゾーンの子どもたちに良質な保育を行う事で育ちを支え、就学後の集団生活での困難の減少につながる事を目的として平成 27 年度より守口市の公立の幼稚園、保育所における 5 歳児健診巡回支援事業が開始された。2 年の経過を経て平成 29 年度秋から 5 歳児保護者事前アンケートのみ実施している私立幼稚園 1 園を除くすべての公立・私立の幼稚園、認定こども園等で 5 歳児健診巡回支援事業を実施することができた。保護者に対する事前アンケート、秋の巡回健診、春の巡回支援、保護者への支援、就学後の経過観察を一連として定着させることができた。その結果、要支援者に対して医療機関、療育機関、学校との連携をとることが可能となった。今後は就学後の支援に繋げる取り組みに拡大してゆくことが望まれる。

3-5. 学校メンタルヘルス活動からみえてきた学級崩壊の構造と対策

三重県医師会・うめもとこどもクリニック 院長 梅本 正和

三重県医師会・駒田医院：駒田 幹彦
国立病院機構三重病院小児科：大橋 浩
三重県教育委員会：貞光 祐子

これまで、アンケートを用いて学校メンタルヘルス活動をおこない、自己内面をみる重要性を指摘してきた。今回、①小学校のクラス編成後、高学年で学級崩壊となった要因と、②中学校での自尊感情をあげるための工夫に関して報告する。小学 6 年生のクラス編成のため、問題行動のある男子 6 名を均等に配分したが、あるクラスが学級崩壊となった。その組には希死念慮をもつ女子が 7 名も在籍しており、居心地度は悪化し意欲の低下がみられた。一方、問題行動の男子 2 名の居心地度は良くなり、問題行動は悪化した。中学校では、希死念慮の人数が改善したクラスでは自尊感情点数が上昇しており、どのような策がとられたかを分析した。結論：①クラス編成では、事前の健康度チェックによる内在性問題の把握が重要なこと、②自尊感情をあげる具体的な方策の獲得がわかった。

3-6. 西宮市児童におけるインターネット依存の実態調査

兵庫県医師会・西宮市医師会学校保健委員会 委員長 前 寛

西宮市医師会：会長 大江与喜子、副会長 伊賀 俊行
理事 谷口 賢蔵、理事 米倉 康博
学校保健委員会：副委員長 折山 文子、委員 下竹 敦哉
委員 増田 基子、委員 満田 基温

【はじめに】近年小児においてもネット依存が社会問題となっており、実態を調査するためにアンケート調査を行った。

【対象と方法】西宮の市立小学 5 年生 277 人と中学 2 年生 449 人にアンケートを行った。ネット依存の評価はキンバリー・ヤング博士が作成した Internet Addiction Diagnostic Questionnaire を用いた。ネット依存と判定した児童と非依存と判定した児童で健康被害の有無を中心に比較検討した。

【結果】ネット依存と判定した小学生は 7.9%、中学生は 11.6%であった。健康被害は小学生で依存の

児童が肩こり腰痛、全身倦怠感で有意に健康被害を認めた。中学生では胃腸障害、頭痛、肩こり腰痛、気分不良、全身倦怠感の調査項目全てで有意に健康被害を認めた。

【考察】年齢とともにネット依存による健康被害が顕著となると考えられ、小学生からネット依存に陥らないような対策が必要である。

3-7. 睡眠育成士の活動について

愛知県医師会・松川クリニック理事長・名古屋市医師会学校保健内科会会長 松川 武平

仁愛診療所・名駅睡眠医療センター・センター長：中山 明峰

東邦大学看護学部社会疫学研究室教授：坂本なほ子

現在約 60 万人の引きこもり、そして約 40 万人の不登校児童がいると言われ、不登校児童は引きこもりの予備軍になる可能性がある。不登校児童はしばしば睡眠医療センターや小児科に受診し、朝が起きることができないため不登校になると保護者が訴える。

最近、睡眠不足や睡眠リズムの乱れている児童生徒は非常に多い。

2018 年より市民講座を開き、年 5 回の睡眠講習を受け、認定試験に合格した参加者に対し、睡眠育成士という資格を作った。この睡眠育成士は主に睡眠の基礎を学び、小学校から要請を受けた場合、子ども達に睡眠の教育を施すボランティア活動である。

これらの活動は開始したばかりではあるが、その一歩を紹介させて頂く予定である。

第4分科会「耳鼻咽喉科」

4-1. 耳鼻咽喉科学校医の健康教育の現状と対策

～富山市小中学校養護教諭へのアンケート調査結果をもとに～

富山県医師会・高野耳鼻咽喉科医院 院長 高野 正美

児童生徒の健康支援には、各科専門領域における健康教育の推進が重要である。しかしながらその役割において、耳鼻咽喉科学校医の関与が少ないとの報告が多い。そこで、学校保健に従事している養護教諭にアンケート調査を行い、問題点や今後の関わり方を検討した。

【結果】学校保健委員会を主とする健康教育において、耳鼻咽喉科領域の疾患が扱われる回数が、他科に比べ少ない。その要因として、要請や提案の多い課題が優先され、耳鼻咽喉科領域の疾患は優先順位が低いと認識されていること、養護教諭が耳鼻咽喉科疾患に馴染みが薄いことなどが考えられた。また耳鼻咽喉科学校医は忙しそうなので業務等を依頼する際に躊躇するとの意見も多かった。これらの問題を考慮し、今後の健康教育に携わる方法を試みた。

4-2. 学校保健に関する行政への働きかけとその成果

新潟県医師会・日耳鼻新潟県地方部会学校保健委員会 委員長 大滝 一

日耳鼻新潟県地方部会学校保健委員会：副委員長 大倉 隆弘、長場 章、和田 匡史

日耳鼻新潟県地方部会の学校保健委員会では、2013年（H25）以降、学校保健関連の要望を新潟県や新潟市などの行政に行ってきた。要望事項は以下の6項目である。

1. 新潟県における軽度中等度難聴児への補聴器購入費用の助成：2013年（H25）
2. 新潟市への軽度中等度難聴児への補聴器購入費用助成の基準緩和：2014年（H26）
3. 粟島浦村の幼稚園、小中学校の耳鼻咽喉科健診の実施：2016年（H28）
4. 新潟市の私立幼稚園における耳鼻咽喉科健診の実施：2017年（H29）
5. 三条市における中学生の通院費助成の実施：2018年（H30）
6. 新潟市における中学生の通院費助成の実施：2019年（H31）

上記要望の詳細とその成果を報告する。

4-3. 大阪市における耳鼻咽喉科学校保健による現状（続報）

～大阪市公立小中学校養護教諭へのアンケート～

大阪府医師会・森脇耳鼻咽喉科 院長 森脇 計博

岡崎 鈴代、坂 哲郎、武市 直範、遠山 祐司、西村 洋
西村 将人、丹生真理子、三代 康雄、川崎 良明、田中 英高
福田弥一郎、森口 久子、益田 元子、中尾 正俊、茂松 茂人

保険調査票の活用、事後措置について、定期健診中に養護教諭が聴力検査の結果を報告しているか調査した。片側のみ高度感音難聴児童生徒、現在在籍中の両側30dB以上の児童生徒について、また今まで経験された両側30dB以上の児童生徒について、補聴器装用や学校生活に配慮していたか、もしくは耳鼻咽喉科受診をうながしたかなど調査した。最後に成人も含めた聴覚障害者に対する補聴器助成制度や、軽度中等度感音難聴児童生徒に対する補聴器助成制度の知識などを調査した。今回養護教諭がこのアンケートを回答するにあたり、以上の内容を説明した文書も読まれたので、良いアナウンスになったのではないかと考えている。

4-4. 軽度・中等度難聴児の補聴器装用状況について

神奈川県医師会・小田原市立病院耳鼻咽喉科部長 寺崎 雅子

田中 義人、中筋 康太、溝上 雄大、和田 彩
大町 千佳、秦 夢乃、稲枝 道子、三輪レイ子

【目的】軽度・中等度難聴児の補聴器装用状況について検討。

【対象】調査時に15歳未満で良聴耳の平均聴力レベルが40 dB HL未満の軽度難聴児4名、40 dB HL以上70 dB HL未満の中等度難聴児7名。

【結果】難聴の診断は、AABR検査で指摘された者が5名、健診で指摘された者が2名、言語発達の遅れやテレビの音量が大きかった者が4名であった。構音障害があり言語聴覚士の指導を受けたものが8名いた。構音の誤りが出現して初めて補聴器の装用時間が短いことに気が付いた者、小学校に入学してから補聴器を拒否する者などがいた。

【考察】口頭指導ばかりでなく言語検査や構音検査、語音明瞭度検査など客観的な指標を用いて具体的に指導する必要があると考える。

4-5. 川崎市における耳鼻咽喉科定期健康診断20年間の疾患別統計の検討

神奈川県医師会・川崎市医師会学校医部会 幹事 吉川 琢磨

増田 康一、荻野 貞雄、根岸 達郎、宮部 聡、下山 丈紀

日本耳鼻咽喉科学会学校保健委員会では、学校健診における耳鼻咽喉科疾患の推移を調査する目的で、全国に定点市町を定め平成12年度より5年間にわたって日本耳鼻咽喉科学会方式で健康診断結果の集計を行った。

神奈川県下では横浜市と川崎市が参加し、平成16年度をもって終了した。川崎市では調査終了後も市教育委員会、養護教諭、市学校医部会の協力を得て調査を継続している。

前回15年間の報告をしたが、更に5年分データを蓄積し20年間の疾患別統計をまとめた。社会全体でのアレルギー性鼻炎の有病率の上昇、低年齢化が、耳鼻咽喉科学校健診の現場で反映されているのか、また他の有所見率の変化について検討したので報告する。

4-6. 徳島県における先天性一側性外耳道閉鎖症児の軟骨伝導補聴器常時装用のための取り組み

徳島県医師会・せきね耳鼻咽喉科医院 島田 亜紀

宇高耳鼻咽喉科医院：宇高 二良

徳島大学医学部耳鼻咽喉科：坂本 幸

徳島県医師会：齋藤 義郎、田山 正伸、今井 義禮

装用効果が高い伝音性難聴であるにもかかわらず外耳道閉鎖症は気導補聴器や骨導補聴器の装用が煩雑なために十分に活用されてこなかった。特に一側性外耳道閉鎖症の場合には、健側聴力が正常のことも相まって、ほとんど聴覚補償が実施されていないのが実情である。我々は2017年に新規発売された軟骨伝導補聴器を導入して、学校における学習環境の改善に取り組んできた。まず、保護者や担任教諭の集団学習下での聞き取りの問題や両耳聴の重要性について理解してもらうと共に、実際に学校に出向いて装用方法等の指導を行ったのでその結果について報告する。

5-1. 近視予防をかえりみる

富山県医師会・森田眼科医院 森田 嘉樹

文部科学省のホームページより大正、昭和、平成の近視（裸眼視力 1.0 未満の者を含む）の児童生徒のおよその割合を知ることが出来る。大正から昭和 13 年まで近視は増え続けるが昭和 13 年から昭和 23 年まで近視は減少に転ずる。そしてそれ以降今日までまた近視は増加している。令和 2 年の日本眼科学会雑誌（124 巻 1 号）に近視抑制に関する総説が掲載され、それに基づいて考案すると昭和 13 年からの近視の減少は学校での屋外活動の増加であり、また大正から昭和にかけての近視の増加は授業での黒板の書き写しによる調節ラグの増大とみることが出来る。であれば現在の教育体制で近視予防は個人の努力の問題ではなく教育制度の問題である。

5-2. 学校医活動に関するアンケート結果

富山県医師会・よねわき眼科 院長 米脇 克哉

富山県眼科医会会長：片山 寿夫
前富山県眼科医会会長：狩野 俊哉

令和元年の学校医活動に関して、富山県の眼科医 127 名にアンケートを実施し 76 名から回答を得た。

学校医を担当している割合は A 会員では 95%、B 会員では 55%であった。1 人当たりの学校担当数は 1～13 園・校、平均 5.5 園・校であった。学校保健委員会は約半数が不参加であり、協力講演を行ったことがあるのが 64%で、最も多い講演内容は近視等の屈折に関するものであった。学校における色覚検査については、全員が必要もしくは希望者に実施するべきと回答した。

園児の視力測定については、保育園・幼稚園での視力測定の徹底が 50%、3 歳児半検診での視力測定の徹底が 48%、就学時までには他覚的検査（スポットビジョンスクリーナー等）を実施が 48%となった。

学校保健委員会への参加率の向上、3 歳児半検診での SVS 導入が必要と考えられた。

5-3. 3 歳児健診での他覚的屈折検査機器の導入について

一富山県全域への導入を目指して一

富山県医師会・片山眼科医院 院長 片山 寿夫

よねわき眼科：米脇 克哉、とよだ眼科クリニック：豊田 葉子
土田眼科医院：土田 真紀、富山大学眼科：三原 美晴

富山県眼科医会は 3 歳児健診の視力検査に他覚的屈折検査の導入を富山市医師会に平成 29 年度に要望した。その要望を受け、富山市は平成 30 年度に従来のランドルト環検査と屈折機器（SVS）を用いた検査の両方を試験的に行い、平成 29 年度のランドルト環単独検査結果と比較した。結果は、屈折異常の検出には、SVS を用いた屈折検査との併用が明らかに優れていた。富山県眼科医会は、富山県全域への拡大を目指し、他覚的屈折検査の有用性を各郡市医師会に示し、各医師会より各市町村へ他覚的屈折検査の導入と機器の購入の要望を依頼した。

その結果、他覚的屈折検査は、富山県の 15 市町村中、令和 1 年度に 3 市で施行され、令和 2 年度にさらに 8 市町村で導入された。他覚的屈折検査の拡大には、各郡市医師会から市町村へ要望する方法が有効であると考えられた。

5-4. 「小児弱視の対応に向けて」の講演と実地研修会を開催する意義

石川県医師会・石川県眼科医会 会長 望月 雄二

石川県眼科医会：佐伯 智幸、宮内 修、輪島 良平、前田 和彦

石川県の学校保健統計をみると、幼稚園で視力検査を実施している施設は殆どなく、石川県は小児の視力検査に対する認識が低いことが解った。3歳児健診、幼稚園・保育園での視力検査時に小児弱視を発見することは非常に重要と思われ、石川県眼科医会では2018年11月から2019年6月にかけて「小児弱視の対応に向けて」の講演と視能訓練士による実地研修会を能登地区・金沢地区・加賀地区で開催した。この研修会は石川県医師会後援に認定され、対象者は幼稚園教諭・保育士・自治体の3歳児健診担当者（医師・看護師・保健師）とした。開催案内や会場準備等は石川県眼科医会会員ですべて行った。開催の準備から実地内容、反省点などについて発表する。

5-5. 江戸川区で実施した5年間の色覚検査の結果と問題点

東京都医師会・田中眼科 院長 田中 寧

田中眼科：金井塚豊美、二本松眼科病院：宇多 重員
江戸川区眼科医会・江戸川区医師会学校保健委員会

目的：江戸川区では全国に先駆け平成27年度より区立小・中学校で色覚検査を実施し、5年間の結果から得た問題点と対応を検討した。

方法：小学1・4年生、中学1年生を対象とした石原式色覚検査表Ⅱコンサイス版で誤読2表以上を眼科受診勧奨とし、江戸川区眼科医会の会員宛に実際の受診状況をアンケート調査した。

結果：眼科受診勧奨者数は年々減少傾向で特に中学校は顕著であった。小学1年生の割合は依然として多く、色覚検査に対する関心度の高さが示唆された。

問題点：教育委員会の協力で学校現場の色覚に関する意識調査を行なった。色覚検査の必要性については高いが、配慮の実施については低く、学校現場のカラーユニバーサルデザインのさらなる実践が必要と痛感した。

5-6. 富山県における平成28年、29年度の学校色覚検査実施調査の検討

富山県医師会・とよだ眼科クリニック 院長 豊田 葉子

富山県眼科医会 学校保健委員
よねわき眼科：米脇 克哉、土田眼科医院：土田 真紀
片山眼科医院：片山 寿夫

富山県眼科医会では富山県教育委員会の協力を得て、平成28年度と29年度の富山県内の全ての学校での色覚検査の調査結果を得ることができた。

色覚検査の実施率は平成28、29年共に小中高校で100%であった。平成28年度の色覚検査希望者の学校での受検率は小学生全体で約93%、中学生全体で約85%、高校生全体で約60%であった。2次検査での眼科受診率は小学校で71%、中学校で58%、高校生で49%と低かった。同時に集められた養護教員のアンケートから、色覚検査に対する保護者の考え方を知ることができ、2次検診の受診率が低い理由について考察した。

教育現場における色覚検査の意義と理解を深めることが2次検査の受診率向上につながり眼科学校医の役目と考えられた。富山県眼科医会では学校色覚検査の実施調査の継続を富山県教育委員会に要望している。

5-7. 小中学生に対するコンタクトレンズに関する指導

大阪府医師会・アイアイ眼科医院 院長 宮本 裕子

コンタクトレンズ（CL）は、医師の指示に基づいて使用されなければならない高度管理医療器の一つである。しかし、現状は、安易な使用によって眼障害が後を絶たない。そこで、CLを使用し始める小中学生のころから、CLに関する正しい知識を得ることが大切だと考え、大阪府健康医療部薬務課製造審査グループに協力し、小学高学年と中学低学年および保護者を対象にしたCLに関する指導のための資料を作成した。今回、本資料を用いて小学5,6年生に対して授業を行い、授業の前にCLに関するアンケート調査を行ったので、啓発資料とともにアンケートの結果をご紹介します。

5-8. 学校での子どもたちへのカラーコンタクトレンズの啓発

神奈川県医師会・宇津見眼科医院 院長 宇津見 義一
加藤 利博、金井 光、亀澤比呂志、岡田 裕、小口 和久

2018年の全国学校での使用しているSCLの種類では、カラーコンタクトレンズ（以下カラーCL）は小学生が2.4%、中学生が3.9%、高校生が3.7%であり、より低年齢化している。カラーCL使用者はその使用素材や弊害などを理解していない場合が少なくないために、確かな情報を基に理解いただきたい。今回、学校において子どもたちに有効なカラーCLに対する啓発を紹介する。